

# 研修6: 機関リポジトリ

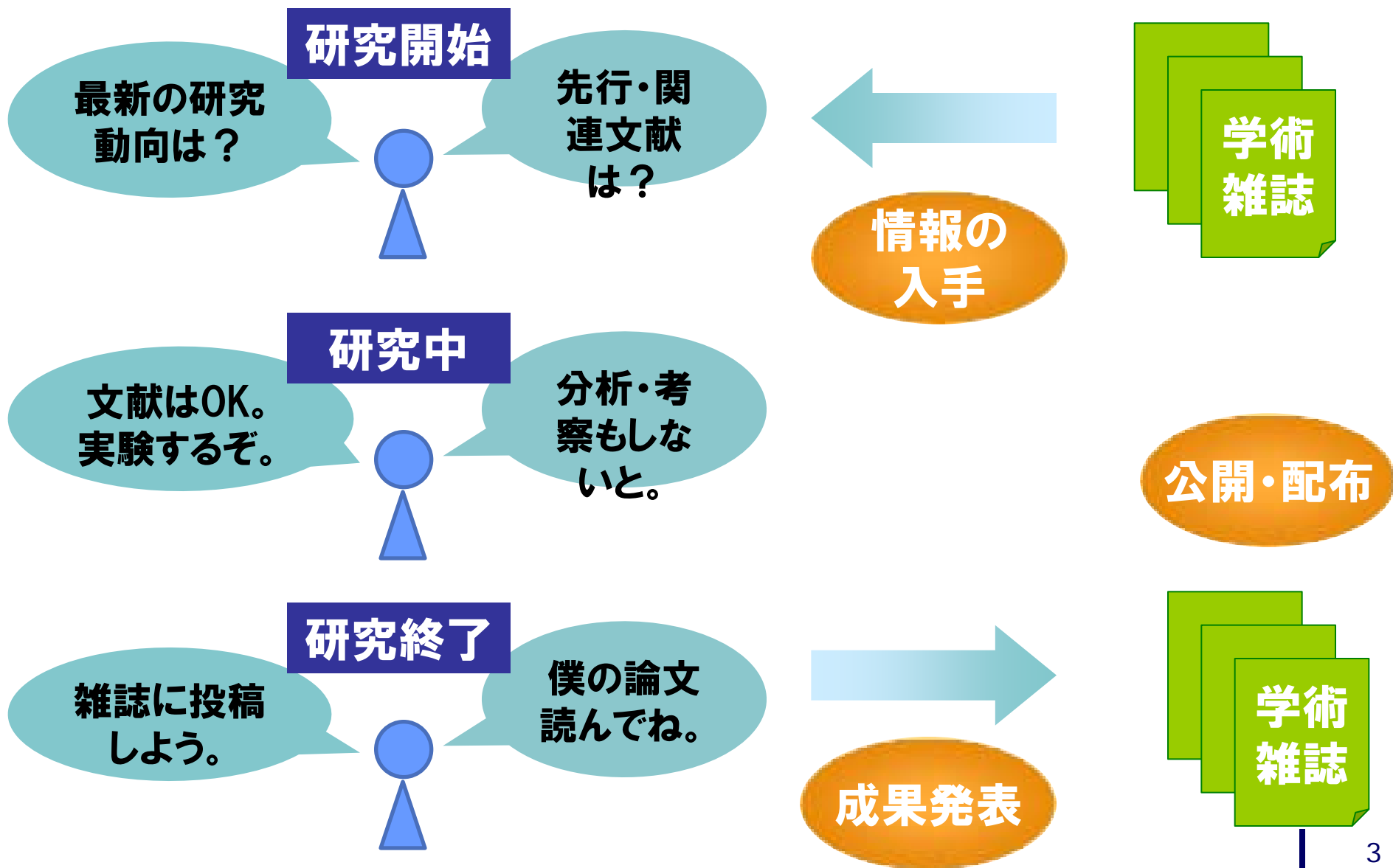
2010.06.24 大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修  
大阪大学附属図書館 土出郁子  
tsuchide@library.osaka-u.ac.jp

(Based on the DRF/Share-Hyogo[2009.12.17] slide: by Daisuke Ueda)

# アウトライン

- 学術情報コミュニケーション
- 機関リポジトリとは？
- 機関リポジトリ構築の実際
  - しくみなど
  - 機関内オーソライズ
  - コンテンツ収集・プロモーション活動
  - 著作権

# ある研究者の活動



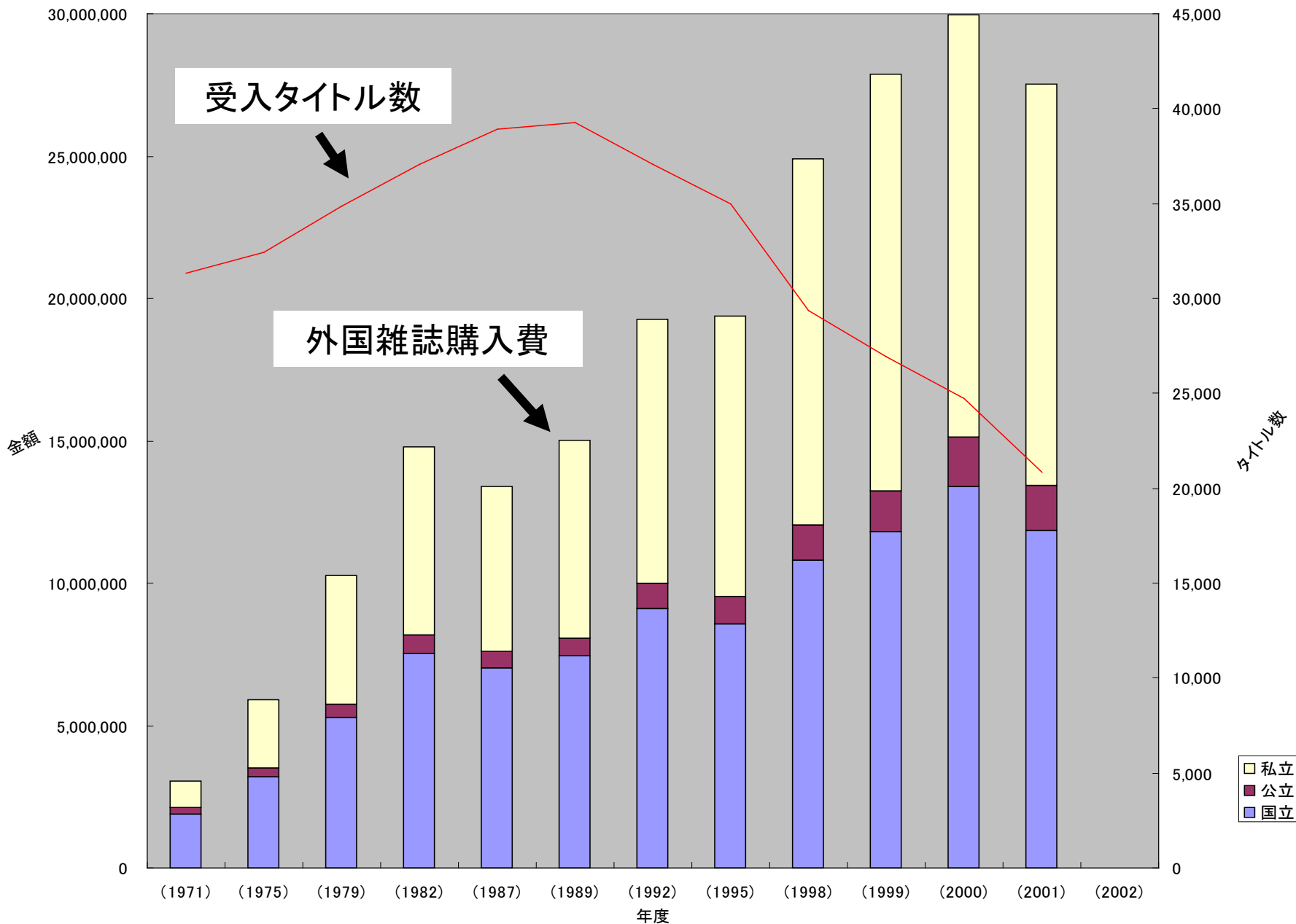
# シリアルズ・クライシス

- 雑誌価格の高騰により、雑誌購読タイトルが減少
  - 研究に必要な情報が手に入らない
  - 自分の論文を読んでもくれる研究者も減少
- 雑誌価格の値上がり → 購読機関(者)減少 → 収益減少分を雑誌価格へ転嫁
  - $\frac{\text{コスト}}{\text{購読部数}} = \text{雑誌価格}$ でしか回収できない

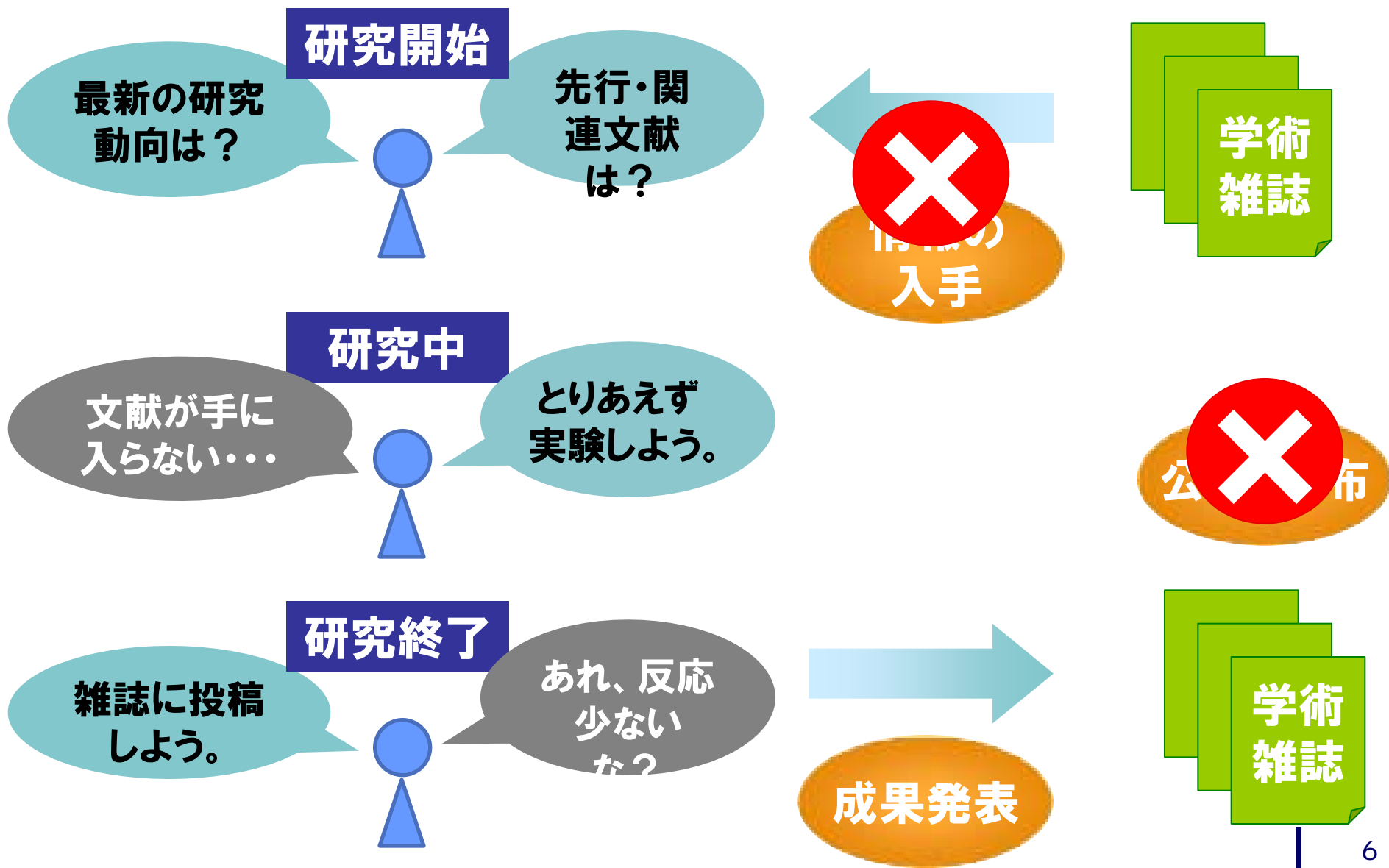
単位:千円

日本国内図書館の外国雑誌購入費および受入れタイトル数

但し1982年度までは和雑誌も含む



# ある研究者の活動



# オープンアクセス

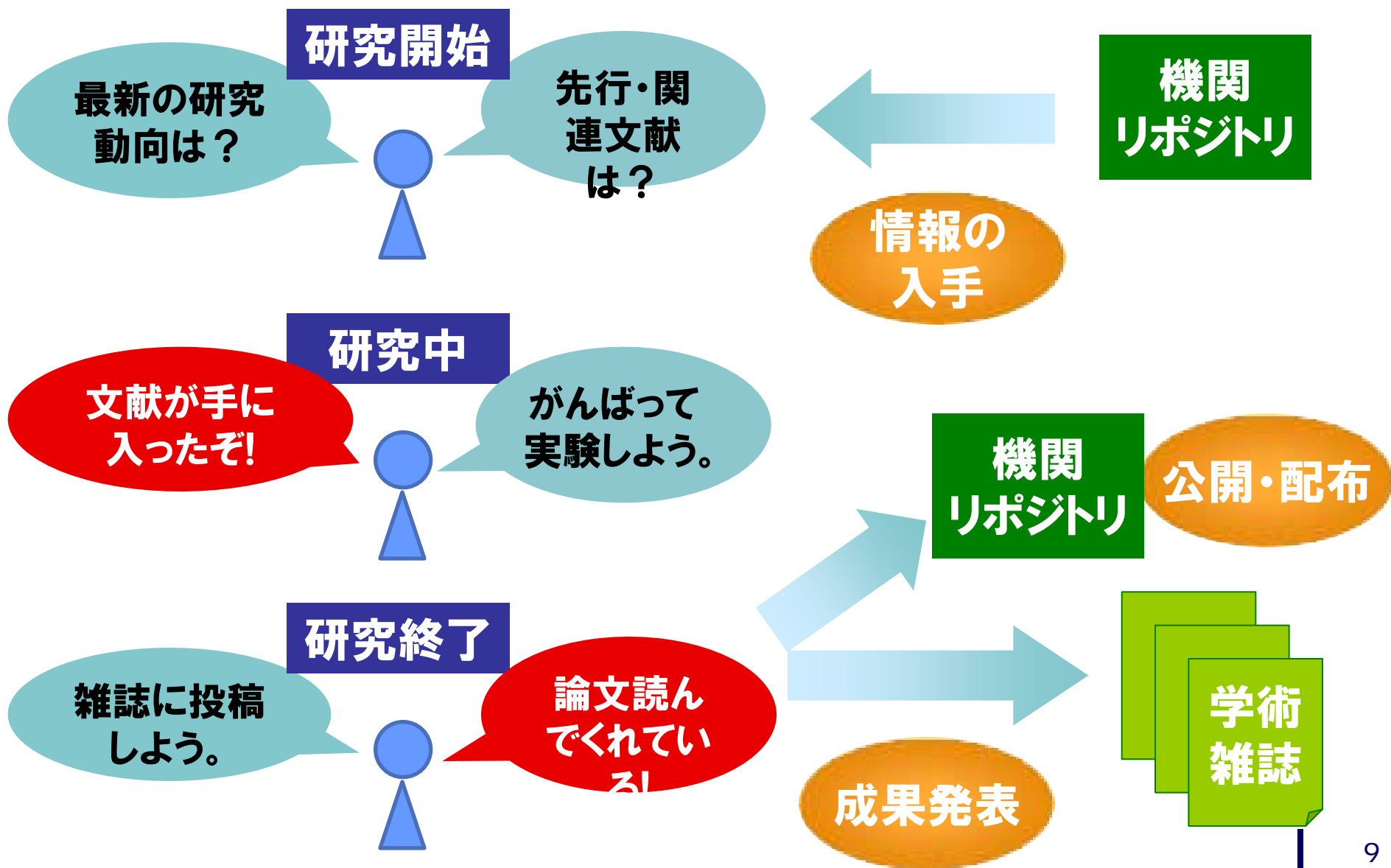
- デジタル形式で、オンライン上にあり、無料で、アクセスへの制限がない文献や論文
- オープンアクセスを実現する方法
  1. Gold Road  
オープンアクセス雑誌, OAオプション
  2. Green Road  
セルフアーカイブ (機関リポジトリ・プレプリントサーバ・著者ウェブサイトなど)

# 機関リポジトリのポジション

オンライン文献		
アクセス制限有り	オープン・アクセス	
有料OJ	OAジャーナル	セルフアーカイブ
	完全無料型, 著者支払い型, エンバーゴ型, etc.	<b>機関リポジトリ</b> , プレプリントサーバ, 著者ウェブサイト, etc.



# ある研究者の活動



# 機関リポジトリとは？

リンチ(**Clifford A. Lynch**) 2003.2

「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」

尾城孝一 2005.7

「大学等の学術機関内で生産された、さまざまな学術情報を収集、蓄積、配信することを目的とした、インターネット上のサーバ」

# 研究者は著者でもある

従来

- 情報入手の支援
  - 読者としての研究者へのサービス
  - 図書・雑誌の購入・レファレンス



IR

- 情報公開の支援
  - 著者としての研究者へのサービス
  - 研究成果公開のプラットフォームを提供

# 日本の状況: 学術情報政策

2002年:『学術情報の流通基盤の充実について  
(審議のまとめ)』→大学等からの学術情報発信  
の必要性と整備

2006年:『学術情報基盤の今後の在り方について  
(報告)』

2009年:『大学図書館の整備及び学術情報流  
通の在り方について(審議のまとめ)』

## 2006『学術情報基盤の今後の在り方について(報告)』

「各大学の教育研究活動の活性化に資するため、さらに、我が国の学術情報の流通の促進を図るためにも、各大学は、学協会との連携を図りつつ、**機関リポジトリに積極的に取り組む必要がある**。その場合、大学図書館は機関リポジトリの構築・運用に**中心的な役割**を果たすことが期待される。」

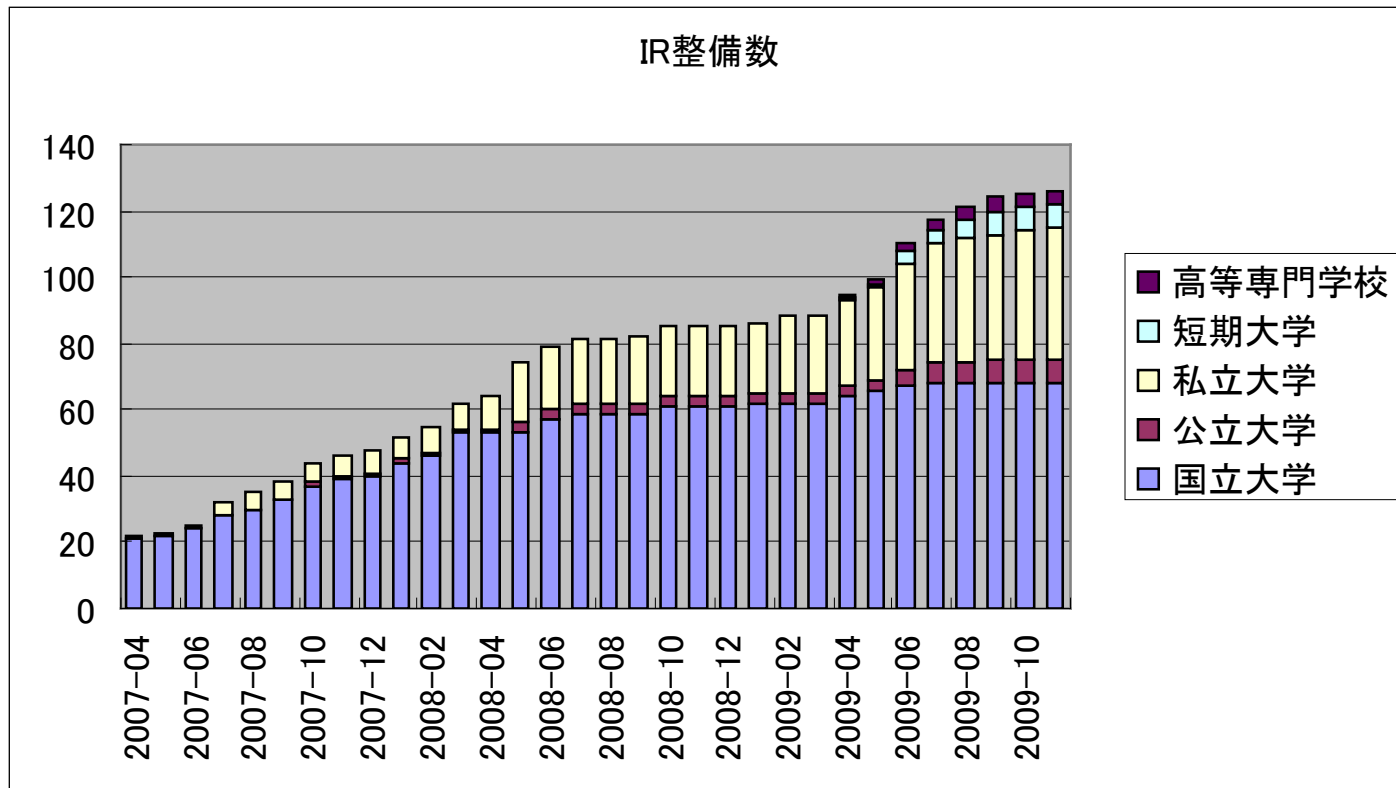
## 2009『大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ)』

- 日本の機関リポジトリ数は世界のトップクラス
- 大学等における積極的な学術情報発信の促進のため、今後更にリポジトリの充実・推進が必要
- 大学における事業の位置づけの明確化、図書館業務としての定着、…維持体制の整備などが課題

# 機関リポジトリの必要性

- 機関が提供するインフラ
- 著者である研究者へのサービス
  - オープンアクセスの支援
  - 研究成果公開のプラットフォーム
- 機関による学術成果の情報発信・管理(保存)
  - 社会一般への説明責任・成果還元

# 国内の機関リポジトリ設置数



IRDBコンテンツ分析システムより抜粋編集  
注: 共同リポジトリの参加機関も含む



# もう少し機関リポジトリ

- 電子図書館と機関リポジトリの違い
  - 電子図書館
    - ✓ 図書館が公開したいものを、図書館が公開する
    - ✓ 読者のためのサービス
  - 機関リポジトリ
    - ✓ 研究者(機関)が公開したいものを研究者(機関)が公開する
    - ✓ 著者のためのサービス

# もう少し機関リポジトリ

- 著者のウェブサイトと機関リポジトリの違い
- 著者のウェブサイト
  - ✓ 研究者の異動等によって消失・URL変更の可能性
  - ✓ そのサイトに直接アクセス
- 機関リポジトリ
  - ✓ 機関で責任を持って管理(アクセス提供、保存)
  - ✓ メタデータのやりとり(ハーベスト)で更なるサービスと連携

# 機関リポジトリ構築の実際

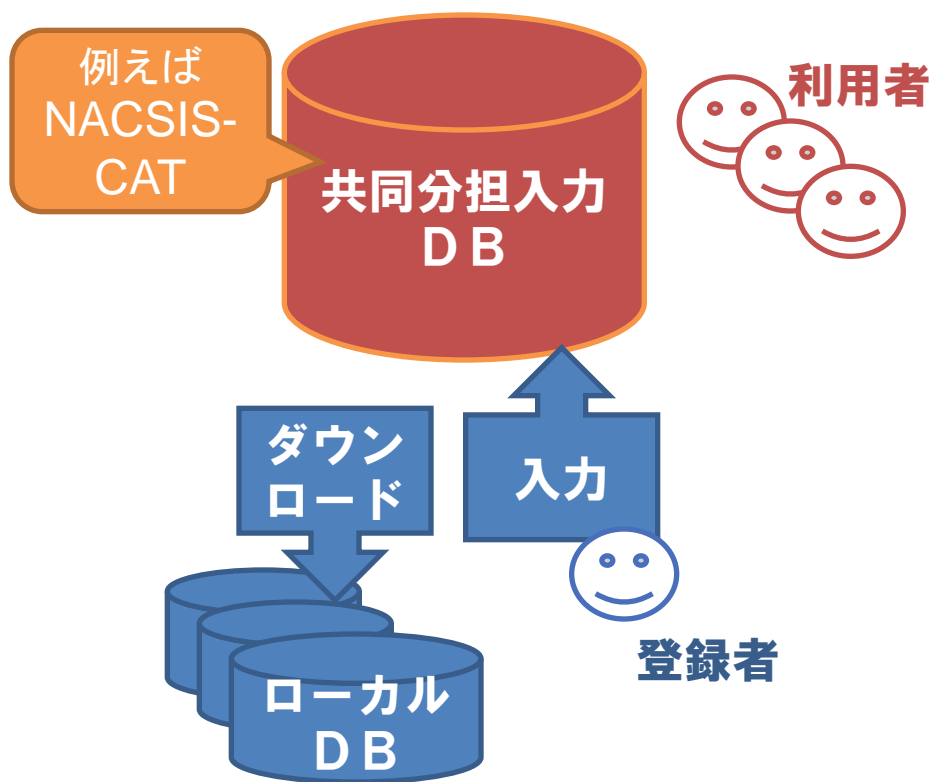
- 事業計画の策定
- 事業化(館内、機関内のオーソライズ)
- 運用指針・規定類の策定
- 運用体制の確立(作業分担、責任体制)
- システム調達、メタデータ設計
- 初期コンテンツ投入
- 広報、プロモーション、コンテンツ収集

# 用語解説

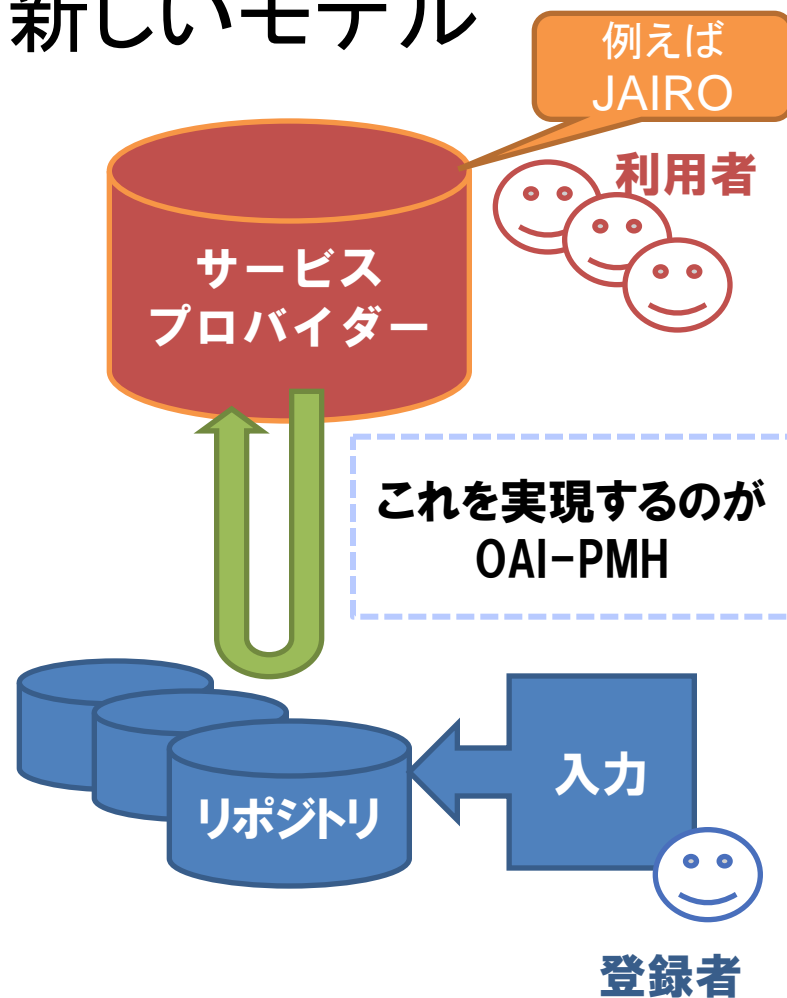
- データプロバイダ⇒リポジトリ
- サービスプロバイダ⇒メタデータを取って  
いってくれるところ (junii2など)
- OAI-PMH⇒データやりとりのプロトコル  
(約束)
  - ✓ Open Archives Initiativeによって開発
  - ✓ OAI-PMHに準拠することで、外部データ提供が実現  
できる

# しくみ: 1

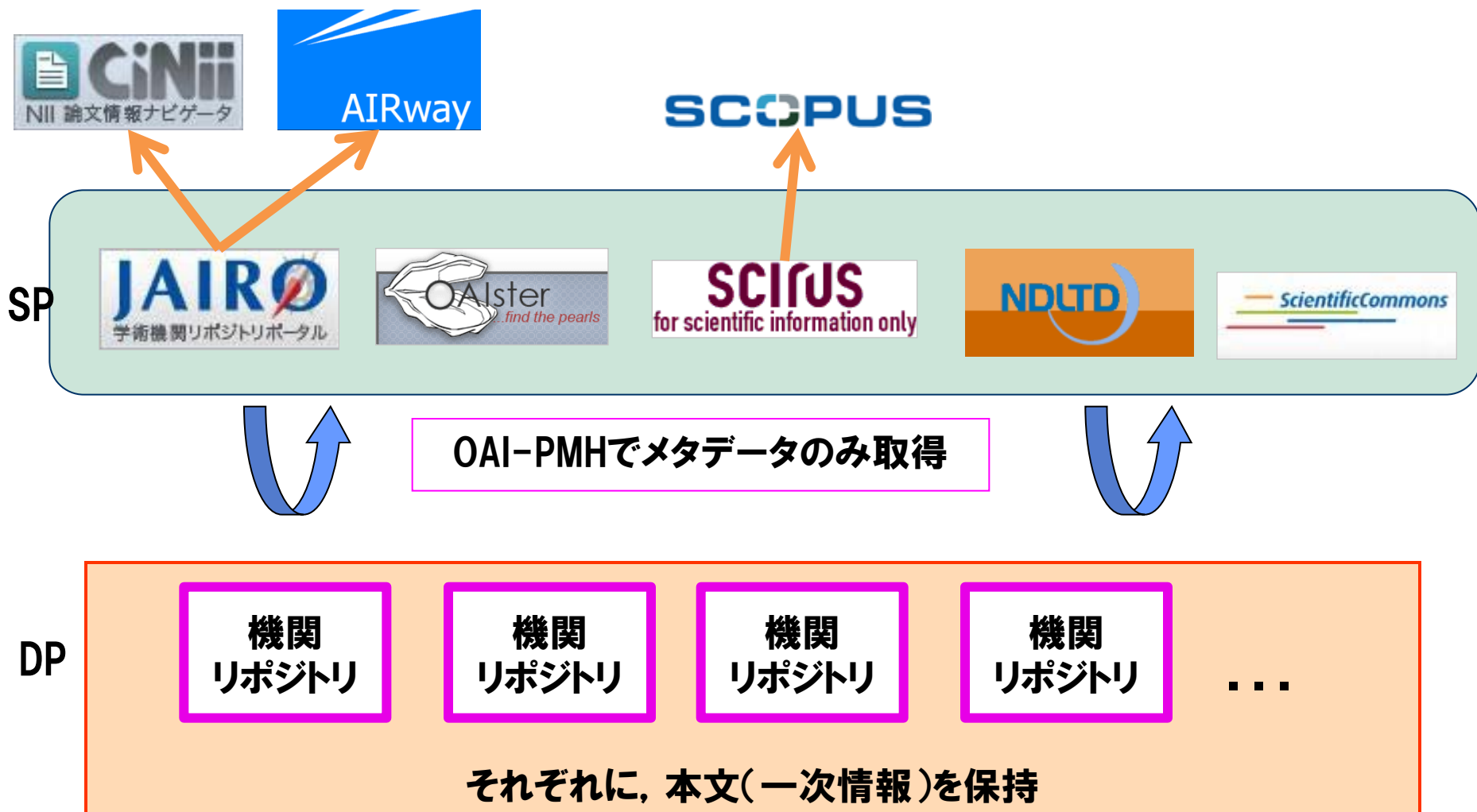
- 今までのモデル



- 新しいモデル



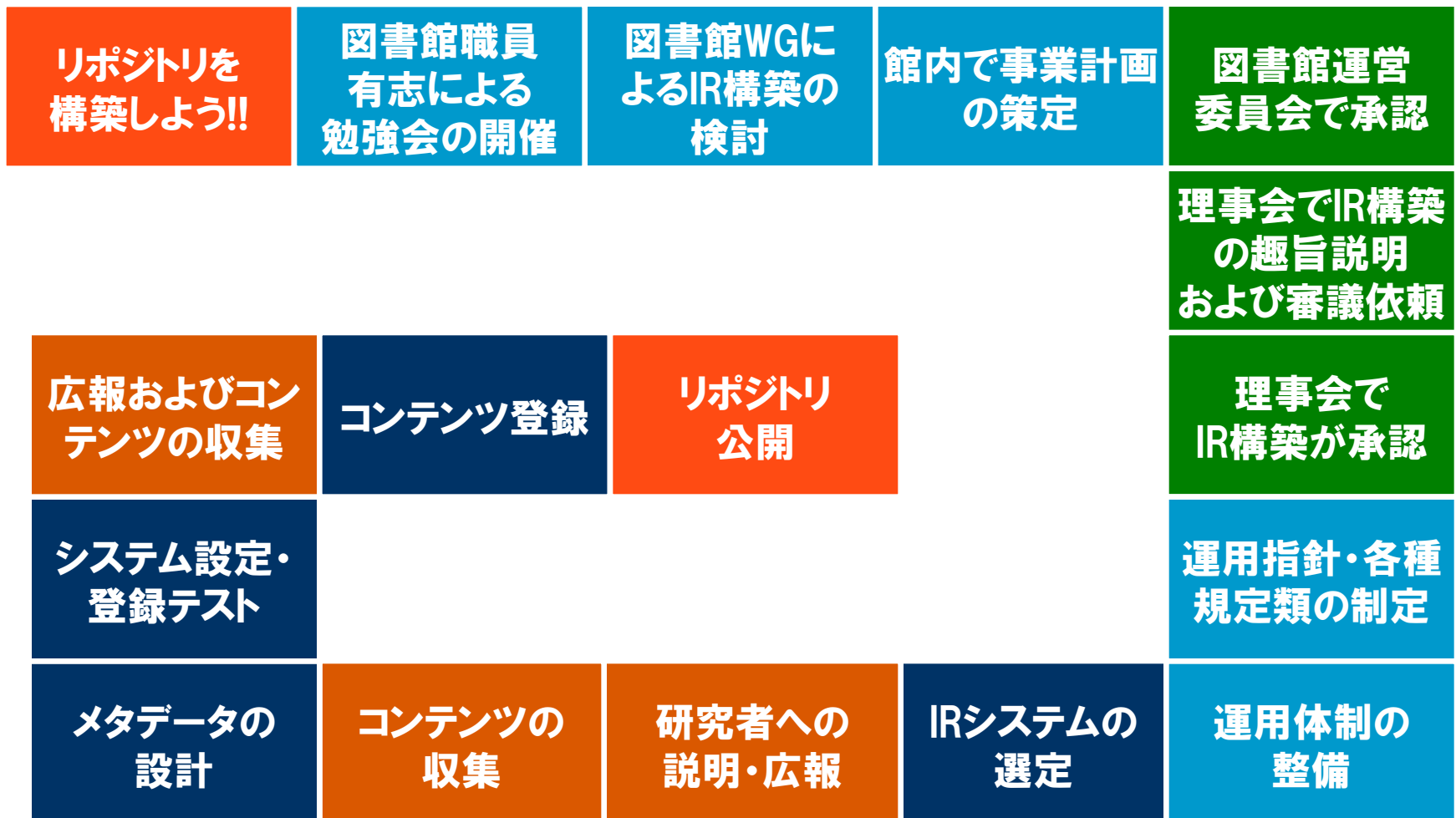
# しくみ:2



# 機関リポジトリのシステム

- 多様な選択肢
  - システム:オープンソース/商用
  - 自力構築/外部委託(導入・カスタマイズ・保守)
  - ホスティング・ASPサービス
  - 共同リポジトリ
  - クラウド

# 構築への道: トップダウンモデル





# 構築への道:ボトムアップモデル



# 機関内のオーソライズ

- 目的
  - 機関内での位置づけの明確化
  - 必要な予算・人員の獲得
  - 幅広い認知活動
- キーパーソン
  - 機関上層部(学長・研究所長・理事など)
  - 部署の長(学部長・研究科長など)
  - 予算担当
  - 情報政策担当

# 規程に盛り込むべき条項例

- 目的・趣旨
- 管理・運営主体の規定
- コンテンツ提供者の定義
- 登録可能なコンテンツの定義
- 権利処理の規定
- 閲覧利用条件の定義
- コンテンツの変更、削除に関する規定
- 免責事項

※DRF wikiの「運用指針一覧」も参考に

# 機関リポジトリのコンテンツ

- 所属研究者の研究成果と機関の活動成果
    - 学術雑誌掲載論文
    - 学会発表・シンポジウム・講演会資料
    - 紀要論文
    - 学位論文
    - 記事・コラム
    - 教材
- など...

# コンテンツ収集戦略

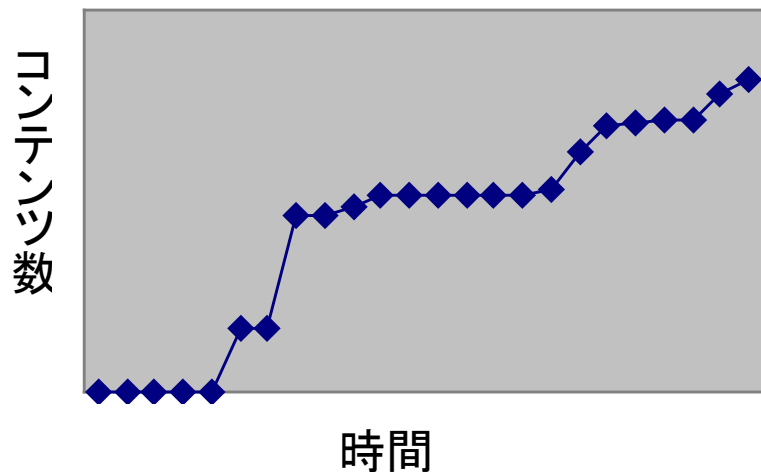
	学術雑誌論文(個別モノ)	学内コンテンツ(一括モノ)
コンテンツ例	学術雑誌論文、学会発表資料 ...	研究紀要、学内刊行物 ...
出自	外で刊行	大学が刊行
対象物	把握しづらい	把握しやすい
アタック先	個々の教員	編集委、教授会など
収集範囲	著者が持っている。過去のものはあまり残っていないので、カレント分に絞らざるを得ない	初号から最新分まで。バックナンバーは刊行元か、書庫所蔵分のスキャンも。あとはアイデア次第
コストと効率	主に人的コスト コンテンツの開拓と収集に労力と時間がかかる。	主にスキャン経費 一括許諾が得られれば作業量は少ない。電子化の要望をうまく引き出す。
IRの持続性への意義	教員ひとりひとりのIRへの理解と支持は事業継続の土台	いったん開拓できれば安定的なコンテンツ流入ルートに
いずれも	コンテンツの持ち主との <b>対話、プロモーション</b> がすべて	

# コンテンツ収集の課題

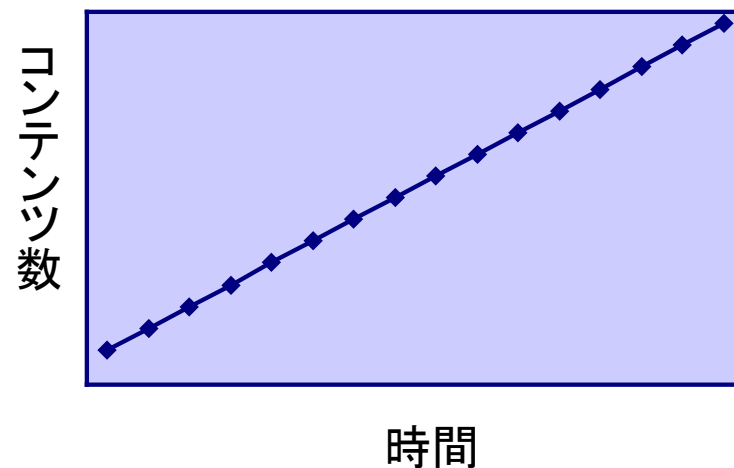
- 自発的なコンテンツ提供を増やすには？
  - 研究者にとって魅力あるリポジトリに
    - 研究者ページの提供など
  - 外部システム(業績DBなど)との連携
- 提出の義務化？
- e-Scienceへの対応
  - 研究データの共有・活用

# コンテンツ収集:よいリポジトリとは?

現実



理想

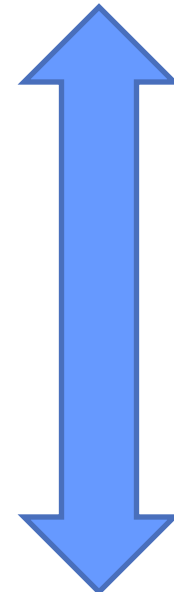


着実なコンテンツの獲得を!!

# プロモーション活動

- 愛称、キャラクター、グッズ
  - クリアファイル、バッグ、うちわ、食堂三角スタンド、缶バッチ、鉛筆、ちらし、...
- ポスター
- 説明会（教授会、自由参加型、データベース講習会のついで、...）
- 説明会の質疑応答、個別コンタクト、**切り番インタビュー**
- 統計情報のメール通知

広く認知度を  
高める



意義を  
感じてもらう



# 個別コンタクト

- 説得ではなく、話を聞きに行く
  - 研究について、成果発表方法について、情報の入手方法について、図書館活動について
    - 研究に対する理解が深まる
    - 図書館活動全体にとって有益
  - 分野によって研究スタイルは違う
    - 状況に応じたアプローチが必要

# 著作権

「誰のもの」をリポジトリに登録するのか

登録に際して複製権・公衆送信権を使用



誰が持っているか(著作権者は誰)?

**著作権者が直接リポジトリに登録するなら、何も問題はない**

# 著作権の所在: 著者or出版者?

出版時の契約によって権利の一部移行(譲渡)が生じる

- 雑誌論文(出版者によって範囲・条件が違う)
- 単行書
  - **出版者に権利が譲渡されている場合が多い**
  - 教員が論文のリポジトリ掲載を希望→要ポリシー調査, 許諾依頼, 問い合わせ
- 大学の刊行物・紀要
  - 発行元の方針を明らかにし, 一括許諾/個別許諾

# 分からないことがあったら

## DRF（デジタルリポジトリ連合）

- 公開メーリングリスト・ウェブサイト
- ワークショップの開催（全国・地域）



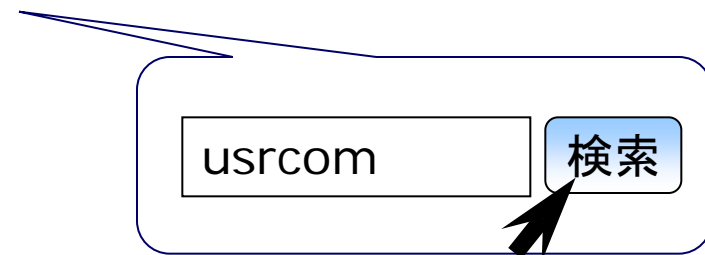
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/>

「関連資料集」⇒「トピック」

# システムをさわってみる

## UsrCom (ユーザー・コム)

- 複数のリポジトリシステム体験サイト
- 掲示板:ハンドルネームで投稿可
- <http://usrcom.ll.chiba-u.jp/usrcom/>



# あなたの機関にとっての 機関リポジトリとは？

1. なくてはならない存在
2. あったほうがいい
3. どちらでもない
4. なくても十分

機関リポジトリの構築・運用のハードルは下がっています。  
後は、必要性を見極めてやるかどうかを決定するだけです。

ご静聴ありがとうございます

一緒にたのしい図書館とリポジトリをつくっていき  
ましょう♪

<総論>

土屋俊「学術情報流通の最新の動向：学術雑誌価格と電子ジャーナルの悩ましい将来」『現代の図書館』42(1), 2004, pp. 3-30.

栗山正光「総論 学術情報リポジトリ」『情報の科学と技術』55(10), 2005, pp. 413-420.

Budapest Open Access Initiative. 2002. <<http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>> [accessed 2010-05-19]

Lynch, Clifford A. "Institutional repositories: essential infrastructure for scholarship in the digital age." ARL Bimonthly Report, 226, 2003. <<http://www.arl.org/resources/pubs/br/br226/br226ir.shtml>> [accessed 2010-05-19] (「機関リポジトリ：デジタル時代における学術研究に不可欠のインフラストラクチャ」国立情報学研究所訳 <<http://www.nii.ac.jp/irp/archive/translation/arl/>> [accessed 2010-05-19])

尾城孝一「第8章 機関リポジトリ」逸村裕・竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』勁草書房, 2005, pp.101-114.

<学術情報政策文書>

文部科学省科学技術・学術審議会・研究計画・評価分科会・情報科学技術委員会・デジタル研究情報基盤ワーキング・グループ『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』2002.3.

<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm)> [accessed 2010-05-19]

文部科学省研究振興局情報課『学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告書）』2003.3.

<<http://www.soc.nii.ac.jp/anul/j/documents/mext/kaizen.pdf>> [accessed 2010-05-19]

文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』2006.3.

<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm)> [accessed 2010-05-19]

文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会『大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ）』2009.7.

<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1282987.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1282987.htm)> [accessed 2010-05-19]

<国内・海外の機関リポジトリ状況>

国立情報学研究所「IRDB コンテンツ分析システム」<<http://irdb.nii.ac.jp/analysis/index.php>> [accessed 2010-05-19]

「Registry of Open Access Repositories (ROAR)」<<http://roar.eprints.org/>> [accessed 2010-05-19]

「ROARMAP」<<http://www.eprints.org/openaccess/policysignup/>> [accessed 2010-05-19]

<実務のために>

国立情報学研究所教育研修事業「学術ポータル担当者研修 カリキュラム及び講義資料／成果物」

<<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/result.html>> [accessed 2010-05-19]

- ◎ 平成18年度より機関リポジトリの構築をテーマにしている。概論、システム、教員へのアプローチ、著作権など。

DRF-Wiki「Hot Topics」<<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drff/index.php?Hot%20Topics>> [accessed 2010-05-19]

- ◎ 立ち上げたときの登録先、バックアップ、各機関の運用指針など。

UsrCom <<http://usrcom.ll.chiba-u.jp/usrcom/>> [accessed 2010-05-19]

- ◎ 5種類のリポジトリシステムお試しと質問掲示板。ハンドルネームでユーザー登録ができる。

SHERPA/RoMEO <<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>> [accessed 2010-05-19]

- ◎ 洋雑誌の出版社著作権ポリシー調査ツール。

学協会著作権ポリシーデータベース(Society Copyright Policies in Japan: SCPJ)

<<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>> [accessed 2010-05-19]

- ◎ 国内学協会の著作権ポリシー調査ツール。